

# 九州・埼玉2拠点で全国へSC強化 化粧品GMPに対応しより高品質化へ

「自社工場一貫生産」を強みに、成型から加飾まで一貫して自社で手掛けているツバキスタイルは、2014年1月より椿化工の営業部門を東京に移転し、販社として新事業をスタートさせた。スキンケアやトイレタリーを主としたプラスチック容器を中心に提案してきたが、ツバキスタイルとなつてからは、メークやジャー容器など多方面にも提案の幅を広げ、容器のトータルアドバイザーとして展開してきた。2016年7月には、佐賀県吉野ヶ里町に九州工場を新設し、製造・開発力のさらなる強化を図るなど、「次世代に向けた提案」が始まろうとしている。

## 需要増受け佐賀に第二工場 アジアへの輸出の利便性高まる

11月4日に佐賀県神埼郡吉野ヶ里町と進出協定を締結し、埼玉工場に次ぐ第2工場として2016年7月の本格稼働を目指す。化粧品容器生産工場としては、佐賀県は同社の初の進出企業となる。

九州工場は敷地面積3100坪、工場建屋1698坪で、埼玉工場とほぼ同じの生産規模となる。初年度は地元的女性を中心に正社員20名、非正規社員120名を雇用し、地域雇用の活性化にも貢献する。

佐賀に第2工場の設立を決めた理由として、同社では災害リスクが少なくことやアクセスの良さを挙げている。特にサプライチェーン（SC）については、



佐賀で今夏稼働する新工場

在の埼玉工場だけでは対応しきれなくなっていたという、工場の増設が急に求められていた。同社は過去、共同出資により海外工場を建設する一歩手前まで話を進めていたが、文化的相違など様々な事情で断念していた。その後まもなく、

## 二軸延伸ジャーとポンプに新型 環境配慮型企業へ前向きに活動

同社は、2015年に二軸延伸PETジャー容器「MIMI」を発売した。一般的な射出成型ジャー容器より、強度、気密性が高く、低粘度のバ

ルックでも使用できるという。ガラスのような透明感が再現でき、コストも抑えられるという利点もあり、順調に商品化されている。デザイン性の自在性も特長としており、従来は困難だった特殊形状も成型可能なため差別化も容易としている。



ジャー容器「MIMI」



意匠登録されているポンプ容器

器サンプルをつくることのできる3Dプリンタを導入したため、商談スピードが飛躍的に加速し、顧客の企画案の具現化がスムーズになった。以前よりガラスからプラスチックへの切り替え需要に對していち早く対応し、二軸延伸プロロー成型機の充実化を図ってきたため、ポンプ容器、ジャー容器ともに採用増につながっているという。

同時に「環境へのやさしさ」を提唱している同社は、工場棟と事務所棟に直管型LEDランプ搭載ベースライトを合計約1000本導入し、工場はすべての照明をLEDライต์化した。従来の蛍光灯と比較してほぼ同等の明るさを保ちながら、約42%の省エネを達成し、光源寿命は約4万時間と蛍光灯の3倍以上も長寿命化を実現している。さらに工場と倉庫屋根を遮熱塗料に塗り替え、その上に太陽光パネルも設置した。

また、製造工場である椿化工において化粧品容器メーカーとしては世界で初めて、植物由来度と環境対応性を証明するSGS・ULといった世界二大認証会社によるマークを取得した。SGS社とUL社による植物由来素材度認証を取得し、環境に対する取り組みを、材度検証制度は、植物の収穫から最終製品までの製造工程と原料や製品の出入庫管理体制を検査しており、使用される植物由来原料のすべての工程上での環境対応状況を把握することが可能だ。これにより、悪質な非植物由来素材の故意や事故による混入を防止している。「限りある化石資源は、今のまま使い続けられ2050年にはなくなってしまうといわれている。私たちツバキスタイル、椿化工は、この限りある資源を少しでも後世に残していきたいとの思いで、樹脂成型品の原料にサトウキビの廃材からつくられるバイオマスプラスチックの導入に積極的に取り組んでいる。企業の環境行動を評価する生活者は76%にも達しており、環境への取り組みは受



容器メーカーでは世界で初めて同社で生産するバイオPET容器が世界屈指の認証機関によりその植物由来度と環境対応性を認められた



バイオマス  
使用部位：容器本体  
No.150005